

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	数学Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月曜・1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	線形代数に登場する様々な概念を理解し計算できるようになる。		
到達目標	連立1次方程式, 平面の直線などを「行列」と「ベクトル」で表して計算できるようになる。		
授業内容 授業形態 ※	連立一次方程式の復習、連立一次方程式と行列・ベクトル、連立一次方程式と行列式、連立一次方程式とクラメル公式と逆行列、行列の一般論、平面のベクトルと直線の式、内積と平行四辺形の面積、法線ベクトルと点と直線の距離、座標の列ベクトルと直線の式、座標の列ベクトルと内積と法線ベクトル、平面のベクトルの一次変換、固有値と固有ベクトル、対角化、二次形式  授業は前半に講義し、後半に演習を行う。演習はmoodleで実施する。		
評価方法 ※	演習50%, 中間試験25%, 期末試験25%		
評価基準			
テキスト	微分積分と線形代数の入門 オンデマンド (ペーパーバック) - 2023/1/5 吉田 直広 (著)		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 <a href="https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/">https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/</a> トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	家族社会学	単位数 ※	2
開講学期※	2023年度 後学期	曜日・時限 ※	月曜1限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	
学修分野			
授業目的 ※	少子高齢化が進むなかで、現代日本の家族はさまざまな問題に直面している。本講義のねらいは、現代日本の家族および家族をとりまく社会状況について理解を深めるところにある。		
到達目標	家族社会学における基礎概念や主要理論を理解することができる。統計資料等を根拠に家族の現状や変化を分析することができる。グローバル化する社会のなかで多様な価値観に支えられた家族の存在を認識し、彼らが直面している課題と支援について考えることができる。		
授業内容 授業形態 ※	<p>家族に関する基礎概念や主要理論について解説するほか、未婚化、少子化、核家族化、小家族化、子ども虐待、高齢者介護といったトピックスを取り上げながら、家族の現状と家族が直面している諸問題を戦後の社会構造の変化や社会のグローバル化等と結びつけて考察していく。</p> <p>基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法（ペアワーク、ディスカッション等）の手法を活用する。</p>		
評価方法 ※	事前事後学習課題および授業内試験の成績で判断する。		
評価基準	事前学習・事後学習課題30点、授業内試験70点、合計100点		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	事前・事後学習を欠かさないこと。		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p><a href="https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp">https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</a></p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	保育内容の指導法(健康)	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月・2
キャンパス※	佐倉	教室※	312
学修分野			
授業目的 ※	保育内容の指導法「健康」の授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園法に示されている幼児期の終わりまでに育みたい10の姿に向かい、幼児期に育みたい資質、能力をふまえ、領域「健康」のねらい、内容を理解し、その具体的実践方法を講義で学ぶだけでなく、学生が主体的に考え、体験しながら学び、身につけることを目指す。		
到達目標	領域「健康」は「遊び」と「生活」を通して総合的に実践することを理解し、情報機器の利用を含む保育者の具体的援助方法を身につけること、現代の幼児を取り巻く健康と安全に結びつく生活や社会の問題を知り、解決の一助となる保育者の援助の方法を知り身につけること、これらを講義に加えて、体験、およびディスカッションやプレゼンテーションにより、社会に貢献でき得る問題解決能力やコミュニケーション能力が身につくこと、向上できるようになること、そして全授業を通して乳幼児が心身共に「健康」と「安全」な生活を送るために保育者が重要な役割を果たすことを認識し、保育者としての使命感をもつようになること、である。		
授業内容 授業形態 ※	<p>基本的な授業は、パワーポイント等の情報機器使用による講義、課題の提示、課題を個人、グループで考えまとめる、発表資料作成、発表、全体でのディスカッション、個人で学びをまとめる形式とする。乳幼児の健康と安全の観点から各年齢に合わせて、それぞれの段階で保育者がどのような援助を行えばよいか、乳幼児における健康問題の調査、保育現場での運動遊びや食育の保育方法の実践、乳幼児に対する健康教育方法、保護者に向けた情報共有方法など具体的な実践方法を学ぶ。加えて、自己の生活習慣を見直し修正した生活を行えるための生活記録、1週間チャレンジや散歩等の実践演習を行う。</p> <p>教科書と配布プリントを使用して授業を進めていくため、配布プリント用のファイルを用意し、常に授業に持参すること。なお、試験と同等の評価基準となる課題「ニュースレターの作成」は、配布プリントを参考にして作成していただく。また、カラーサインペン、はさみ、のり等、発表資料作成時に必要な文房具を常時持参すること。最終レポートと授業内課題で評価を行う。</p> <p>なお、天候の関係などでシラバスに示されている授業の順番が入れ替わる可能性があるため、KCN連絡を常に確認すること。また、公欠者への課題はKCNから行うので該当者は確認すること。</p>		
評価方法 ※	授業内での課題30%、最終レポート60%		
評価基準			
テキスト	演習 保育内容 健康 河邊貴子 編著 建帛社		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	コンピュータグラフィックス基礎	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月曜・2限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	
学修分野			
授業目的 ※	可視化技術やメディア産業などで使われるコンピュータグラフィックス技法の基本的な考え方および、生成手法と表現方法について講義を行う。また、2DCGおよび3DCGの概要を解説し、2DCGおよび3DCGの基本的な開発技術を学習する。CGは、Adobe FLASH (2DCG) およびPOV-Ray(3DCG)を用いて作成を行う。		
到達目標	メディア分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を学ぶ。 また、2DCGおよび3DCGの概要を理解し、基本的な2DCGおよび3DCGの作成技術を習得し、高度かつ専門的なICTの知識及び技術を身につける。 (知識・理解) (汎用的技能)		
授業内容 授業形態 ※	<p>01 ガイダンス, 2DCGと3DCGの例と違い 初回ガイダンスのみ合同で実施する。</p> <p>02 (2DCG) 2DCGの画像情報と視覚表現</p> <p>03 (2DCG) 画面構成と黄金比・色彩・色と光の三原色</p> <p>04 (2DCG) 画像情報の扱い・画像の加工とデザイン</p> <p>05 (2DCG) 2DCGの設計と表現</p> <p>06 (2DCG) 様々な2DCGアニメーション表現</p> <p>07 (2DCG) アニメーションの設計と表現の基礎</p> <p>08 (2DCG) アニメーションの設計と表現の応用</p> <p>09 (3DCG) 3DCGの概要、POV-Rayの基本操作</p> <p>10 (3DCG) 座標系, シーンファイルの構成、基本図形</p> <p>11 (3DCG) 彩色, 光源と陰影</p> <p>12 (3DCG) 座標変換 (移動・回転・縮小拡大)</p> <p>13 (3DCG) マッピング, 立体演算</p> <p>14 (3DCG) 作品制作</p> <p>15 (3DCG) 作品評価</p> <p>オンライン (Zoom) で実施します。 ZoomのURLについては本学シラバスをご確認ください。</p>		
評価方法 ※	課題 2DCG課題, 3DCG課題		

評価基準	課題 2DCG課題 (50%)、3DCG課題 (50%)
テキスト	松下孝太郎, 山本光, 柳川和徳, 鈴木一史, 星和磨, 羽入敏樹 共著 “POV-Rayで学ぶ はじめての3DCG制作”, 講談社, 2017年, ISBN: 978-4-06-153827-6 (2,400円+税)
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ <a href="https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.html?guestlogin=Kmh006">https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.html?guestlogin=Kmh006</a> ※開講年度学期 (2023後期)、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	社会学概論	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月曜・2限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	401
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講義は社会学の入門として、社会学の基礎知識の習得を第一の目標とする。前半は、社会学の代表的な学説の基礎理解をめざし、そして、そこから現代社会を理解するための基礎づくりを目標とする。特に代表的な学説は、公務員試験他、社会学を受験科目としているような諸試験の基礎準備となる水準で講義する。後半は、具体的な社会問題の考察を行う。</p>		
到達目標	現代社会理解のための基礎知識の構築（知識・理解）		
授業内容 授業形態 ※	<p>1.イントロダクション 2.社会学の萌芽（コント・スペンサー） 3.初期社会学の学説1（デュルケム） 4.初期社会学の学説2（ウェーバー） 5.初期社会学の学説3（ジンメル・テンニース） 6.社会的人間発達（クーリー・ミード） 7.中間試験 8.シカゴ学派1（トマス・パーク） 9.シカゴ学派2（バージェス・ワース） 10.構造機能主義（パーソンズ） 11.構造機能主義（マートン） 12.現代社会論1（家族論） 13.現代社会論2（逸脱行為論） 14.現代社会論3（大衆社会論） 15.まとめ</p> <p>講義形式で行う。</p>		
評価方法 ※	<p>小テスト 講義内容の理解度 平常試験 全体を通じた講義内容の理解度</p>		
評価基準	小テスト40%、平常試験60%		
テキスト	使用しない		

注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ <a href="https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006">https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</a> ※開講年度学期（2023後期）、授業科目「社会学概論」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	障害インクルージョン論	単位数 ※	2単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月曜日・3限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	さくらホール
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性はなにかを知る。</li> <li>2. 虐待の実態や差別解消の取り組みを学ぶ。</li> <li>3. 地域共生、障害者文化芸術の新しい潮流を知る。</li> </ol>		
授業内容	<p>第1回 ガイダンス（授業計画の説明、講師の自己紹介） 講義「君たちはどんな時代を生きていくのか、何を学ぶのか」（目標1）</p> <p>第2回 前回のリアクションペーパーの紹介 頭を柔らかくする小テスト①（障害児の世界を知る） 講義「障害者のリアルに迫る」（目標1）</p> <p>第3回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ&amp;A 頭を柔らかくするテスト② 講義「障害者虐待」（目標2）</p> <p>第4回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ&amp;A 頭をやわらかくするテスト③ 講義「あなたは虐待する？」（目標2）</p> <p>第5回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A 頭を柔らかくするテスト④ 講義「虐待をしないためには何が必要か」（目標2）</p> <p>第6回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A 頭を柔らかくするテスト⑤ 講義「行動障害と身体拘束」（目標2）</p> <p>第7回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A 頭を柔らかくするテスト⑥ 講義「行動障害の改善」（目標2）</p> <p>第8回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A</p>		



<p>授業形態 ※</p>	<p>第0回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A 頭を柔らかくするテスト⑦ 講義「利用者中心の支援」 (目標1) 第9回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A 講義「障害者が登場する映画やドラマ」(目標3) 第10回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A 講義「警察プロジェクト」 (目標3) 第11回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A 障害者差別をなくすための千葉県条例～条例の成立過程と内容(目標2) 第12回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A 講義「発達障害と事件」 (目標1, 2) 第13回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A 講義「アール・ブリュット」(目標3) 第14回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ &amp; A 講義「意思決定支援」 (目標1) 第15回 地域共生型福祉と障害(目標3)</p>
<p>評価方法 ※</p>	<p>期末レポート15%, 授業ごとのリアクションペーパー70%, 授業への取り組み15%, など。</p>
<p>評価基準</p>	<p>1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性を理解できたか。 2. 虐待の実態や差別解消の取り組みを理解できたか。 3. 地域共生、障害者文化芸術の新しい潮流を知ることができたか。</p>
<p>テキスト</p>	<p>教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。</p>
<p>注意事項</p>	<p>授業中の私語（おしゃべり）など周囲の迷惑になることは厳禁。おしゃべりする人は履修しないでください。 新型コロナウイルス状況などによりオンライン授業になる場合があります。 外部からゲスト講師を招いて「障害者のリアルに迫る」を実施する場合は、授業内容が変更になります。</p>
<p>授業シラバス</p>	<p><a href="https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx">https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx</a></p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	日本経済史 II	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月-3
キャンパス※		教室※	307
学修分野			
授業目的 ※	<p>近世から近現代にかけての日本経済史における多様な研究主題の解説を行います。近現代の社会・経済を特徴づける資本主義について、その特徴や構造を理解するとともに、資本主義社会に移行し、あるいは移行するなかで、「ごく普通の人びと」の暮らしにどのような変化があったのか、また発生した問題点について学びます。講義内容は「家族」や「教育」など、いずれも現代日本が直面する社会問題（たとえば「ヤングケアラー」、「子どもの貧困」など）に関連しています。講義を通して、経済史をたんに過去に発生した出来事＝他人事ととらえるのではなく、自分事として理解し、現代社会の諸問題について観察する知見が得られます。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な研究主題を学ぶことで、日本経済史における研究動向や議論を解説できる。</li> <li>・現代社会の諸問題について考察・解決策を見出す知見を身につけることができる。</li> </ul>		
授業内容 授業形態 ※	<p>(1) イントロダクション：モノからみえる世界  (2) 食べものと日本人①おいしい温度 — つめたさ  (3) 食べものと日本人②おいしい温度 — あたたかさ  (4) 食べものと日本人③栄養と衛生  (5) 食べものと日本人④甘味と労働  (6) 食べものと日本人⑤都市と鉄板  (7) 生きものと日本人①野獣の種類と分布  (8) 生きものと日本人②けものと人の交渉史  (9) 生きものと日本人③野鳥と狩り  (10) 生きものと日本人④水鳥と魚  (11) 見えないものと日本人①虫と飢え  (12) 見えないものと日本人②毒ガス，レポートの書き方の解説  (13) 見えないものと日本人③紫外線  (14) カネになるものと日本人①バード・ラッシュ  (15) カネになるものと日本人②南洋進出と鳥の糞</p>		
評価方法 ※	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価項目割合：課題70%・期末レポート30%</li> <li>・全15回授業の3分の2に相当する10回分の出席が必須です。最低出席回数満たされたうえで、課題の合計点と、期末レポートの点数により成績評価を行います。</li> <li>・期末レポートについては、第12回目の講義でテーマや書き方に関する説明を行います。</li> </ul>		

評価基準	
テキスト	中西聡編『経済社会の歴史 生活からの経済史入門』名古屋大学出版会，2017.
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者と教員，また受講者同士のコミュニケーションを重視した講義です。講義中にディスカッションやグループワークがあり，また教員からの問いかけに自分なりの回答を発表する場面が多くあります。主体的に講義に参加する姿勢と，他の受講者と協働し，他の受講者へ配慮する姿勢が求められます。</li> <li>・毎講義で成績に直結する課題を課します。コツコツと授業・課題に取り組んでください。</li> </ul>
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1">https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</a>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	経営学概論	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月曜・3限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	201
学修分野			
授業目的 ※	<p>経営学の基本的な理論フレームワークについて講義する。経営学の関心は、企業活動にまつわるあらゆるトピックに及び非常に多岐にわたるが、本講義では、経営学の中心的な構成分野である経営戦略論と経営組織論における基本的な用語や考え方に重点を置き、具体的な事例を交えながら解説を加えていく。また、情報社会における経営のあり方と、その理解に必要な着眼点や分析力も併せて説明する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営学における基本的な用語や概念を理解し、情報社会における企業経営にまつわるさまざまな事象を読み解く素養を身につけることができる。（知識・理解）</li> <li>・ 企業経営に関する分析方法などの総合的な理解に基づいて、それを幅広い場面で活用しようとする姿勢を身につける。（総合的な学習経験と創造的思考力）</li> <li>・ 情報社会の変化に対応するために、自律的に学ぶ姿勢を身につける。また、そのために常に高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習する姿勢を身につける。（態度・志向性）</li> <li>・ 企業を理解するための情報収集方法や分的方法に基づいて、さまざまな企業の状況について調べることができる。（汎用的能力）</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業ガイダンス：学習のための情報源</li> <li>2 経営学の内容（1）：企業経営・経営学の全体像</li> <li>3 経営学の内容（2）：株式会社、雇用制度</li> <li>4 経営戦略論：成長戦略（1）：多角化</li> <li>5 経営戦略論：成長戦略（2）：国際化</li> <li>6 経営戦略論：競争戦略（1）：コストリーダーシップ、差別化</li> <li>7 経営戦略論：競争戦略（2）：集中化</li> <li>8 経営組織論：組織構造（1）：職能別組織、事業部制組織</li> <li>9 経営組織論：組織構造（2）：マトリックス組織、その他の組織構造</li> <li>10 経営組織論：リーダーシップ</li> <li>11 経営組織論：組織文化</li> <li>12 経営組織論：モチベーション</li> <li>13 情報社会における現代の企業経営（1）：情報技術の役割</li> <li>14 情報社会における現代の企業経営（2）：情報技術と戦略</li> <li>15 総合理解：これまでの授業内容のまとめと、理解度評価のための試験</li> </ol>		

授業形態 ※	講義形式を主体とし、テーマに沿った事例に基づくディスカッションを毎回行う。 毎回、授業の理解度を測定するための確認テストを行う。
評価方法 ※	課題 簡潔な提出物を求めることがある。 レポート 企業に関するレポートを2回行う。それぞれの評価の割合は25%である。 平常試験 授業最終回に試験を行う。
評価基準	課題10%、レポート50%、平常試験40%
テキスト	「1からの経営学（第3版）」 加護野忠男・吉村典久 碩学社 978-4502375217 本体2,400円
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ <a href="https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006">https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</a> ※開講年度学期（2023後期）、授業科目「経営学概論」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	ホスピタリティサービス	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月・4
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	402
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置付けられます。		
授業目的 ※	<p>サービス産業が拡大する中で、顧客満足度により企業業績を上げることができるホスピタリティビジネスの重要性が高まっています。ホスピタリティの基本スキルを磨き、ホスピタリティマインドを高めることを学びます。</p> <p>インバウンド効果を高める日本の「おもてなし」の推進をいろいろな関係者が取組んでいます。「サービス」と「ホスピタリティ」の違いはどこにあるのか考えましょう。観光振興や国際会議誘致などの担当教員の実務経験を活かして、ホスピタリティマネジメントの事例を紹介しますので、その効果についての理解が深まります。</p> <p>サービス産業従事者（ホテル関係者など）からのホスピタリティマインド実践についての講義を聞くことも予定しています。</p>		
到達目標	<p>①ホスピタリティが何かを理解する。</p> <p>②基本マナーの習得を目指す。</p> <p>③ホスピタリティマインドを高める。</p> <p>④サービス接客検定2級の取得を目指す。（2月受験）</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>以下の内容で進める予定です。必要に応じて実習を行います。</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 なぜ、ホスピタリティなのか</p> <p>第3回 ホスピタリティ・マネジメント（1）</p> <p>第4回 ホスピタリティ・マネジメント（2）</p> <p>第5回 ホスピタリティマインド（1）（ゲストスピーカー）</p> <p>第6回 ホスピタリティ実践の基本</p> <p>第7回 基本マナー（1）</p> <p>第8回 基本マナー（2）</p> <p>第9回 ホスピタリティマインド（2）（ゲストスピーカー）</p> <p>第10回 気配り（1）</p> <p>第11回 気配り（2）</p> <p>第12回 心配り</p> <p>第13回 ケーススタディ（1）</p> <p>第14回 ケーススタディ（2）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>*ゲストスピーカーによる講義は日程変更になることがあります。</p>		

評価方法 ※	レポート（40％）、実習（40％）、授業への能動性（20％）を総合的に評価します。提出したレポートについては授業で説明し返却しますので、振り返りの参考にしてください。
評価基準	
テキスト	授業時に資料などを配布します。
注意事項	ホスピタリティマインドを持って、臨機応変に対応できる力を高めるよう積極的に取り組んでください。
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1910&amp;nendo=2023">https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1910&amp;nendo=2023</a>

※は必須記入事項